

『これからの社会をたくましく生きる子どもたちの育成』

あま市立美和小学校

1 目的

美和小学校では、「力いっぱい考える子」「笑顔いっぱい思いやりのある子」「元気いっぱい健康な子」を目指す児童像としています。これらの力を育むために以下のような手立てとともに、教育活動を進めています。

- (1) 「己書体験」を通し、オリジナルの文字やイラストを描くことにより、自分の思いや夢を実現しようとする意欲を育てます。
- (2) 「情報モラル教室」を通し、インターネットを正しく活用し、犯罪やトラブルに巻き込まれない力を育てます。
- (3) 「いのちの授業」を通し、生まれたことやこれまで育ってきた自分自身を振り返り、自他を大切にできる心や自尊心を育てます。
- (4) 共生社会とは何かを学ぶため「あすチャレ！ジュニアアカデミー」を依頼し、パラオリンピック選手と交流します。
- (5) 「デジタルシティズンシップ教室」を通し、情報社会に正しく、責任をもって生活するデジタル市民の育成に努めます。
- (6) 年間2回行っている「hyper Q-U」のデータ分析を担当だけではなく、専門知識の豊富な講師による分析を依頼し、よりよい学級づくりに生かします。

2 内容 「考える子」「思いやりのある子」「健康な子」を育む事業

(1) 己書体験

それぞれの思いを漢字一文字に込めて、はがき大の用紙にのびのびとイラストを交えながら描きました。自身が大切にしている言葉、これから生活していくためのモットーなどを文字や文に表しました。講師の方のご指導もあり、児童一人一人が自分にしかできない作品づくりを楽しみながら、制作に没頭する大切な時間を過ごすことができました。



【制作の様子】

(2) 情報モラル教室

これからの時代を担う子どもたちには、情報教育が不可欠です。そこで、情報モラル教室では自分を律して正しい判断をする知識と知恵をつけさせたいと考えました。また、より効果の高い時期に行おうと考え、長期休暇前の7月と12月の2回に渡って5・6年生を対象に実施しました。第1回目には、オンラインゲームで知り合った相手に会おうと誘われた場合の正しい対処法や依存の予防法について学びました。第2回目には、SNSの使用に焦点を当て、なりすましによる憂さ晴らしをする事例より、そのような行動を起こさないようにするにはどうすべきかを学びました。また、講師に著作権についても触れて

いただきました。トラブルを防ぎ、自己防衛できる力をつけ、将来、社会で必要とされる正しい判断力と相手を思いやる豊かな心の育成に努めました。

(3) いのちの授業

5・6年生を対象に、助産師の方を講師としてお招きし、受精してから人が生まれるまでの過程を講話と体験を通して学びました。実物大の赤ちゃんの人形を抱いたり、出産体験をしたりすることにより、命の重さや尊さ、生まれてこようとする強さについて体験を通して学ぶことができました。また、今年度は学校運営協議会の方々や全学年の保護者を対象として参観していただきました。生きていることのすばらしさを改めて考えるよい機会だったとの感想をいただきました。



【子宮袋から
人が誕生する体験】

(4) あすチャレ！ジュニアアカデミー

パラアスリートの方を講師にお招きし、夢や目標をもちチャレンジすることの大切さや、多様性を認め合う共生社会を築くことの重要性について学ぶ機会としました。講師の方の大切にしている「他喜力(たきりょく)」をテーマに、一人一人が周りを笑顔にし、共に支え合いながら生活することについてご講話をいただきました。



【講話を聞く様子】

3 評価

情報モラル教室や情報シティズンシップは継続して実施している事業ですが、毎年異なる内容を取り上げ、講師の方が授業をしてくださっています。社会の変化が目まぐるしく、情報を扱う上でのトラブルや犯罪が刻々と変化していることに対応していただけていることはとてもありがたいと感じます。これからの社会を担う子どもたちが、その変化に敏感になり、どう対処していくべきかを考える機会として継続していく必要があると考えています。また、命の尊さを感じたり個性を伸ばすことの大切さを味わったりすること、目標をもって生活していくことも今年度の実践で身に付けることができたと考えています。

4 課題

学校通信を発行し、保護者の方の参観を積極的に進めるように心掛けています。参加者の声をうかがうと、どの授業も好評です。より多くの保護者の方に参加していただいたり、出前授業の内容やよさを発信したりする方法を考え、家庭教育でも生かしていただけるような方法を考えていきたいと思っています。